児童養護施設における働き続けることができる職場環境の諸要因

－子どもの最善の利益に関するアンケート調査を通して－

○　日本社会事業大学大学院　社会福祉学研究科　博士後期課程　　氏名　座安晃生（会員番号 8315）

キーワード：児童養護施設，職場環境，子どもの最善の利益

１．研 究 目 的

児童養護施設における職員の調査では,「対等な職員関係」,「仕事・家庭の両立」が求められることが明らかになった．また，施設長の調査では,「対等な職員関係(職員個人レベル)」,「やりがい(チームレベル),「仕事・家庭の両立(施設レベル)」の各段階が相互に作用し，働き続ける職場環境の要因として形成されていた．児童養護施設における職場環境の要因を把握するうえで、そこで生活している子どもにとって生活環境を整えることも必要であると考える．生活環境というのは，子どもの衣食住を整えるということは言うまでもないが,「子どもにとって何が求められるか」という理念を念頭に置き生活環境を整えることが必要であると考える．本研究の目的は，児童養護施設の職員が「子どもの最善の利益」を認識し支援しているか明らかにすることである．「子どもの最善の利益」は,「児童の権利に関する条約」の第 3 条で謳われ，全国児童養護施設協議会の倫理綱領では「1．私たちは，子どもの利益を優先とした養育をおこないます」と掲げている．本研究では,「子どもの最善の利益」を子どもひとり一人に応じた最善を追求することと定義した．

２．研究の視点および方法

(1)調査対象

調査対象施設は,東京都社会福祉協議会の児童部会に所属する児童養護施設 60 施設であった．調査対象者は，直接子どもの養護に関わる職員(保育士・児童指導員だけではなく，個別対応職員、家庭支援専門相談員、自立支援担当職員)であった．事務員や調理員，栄養士，心理職，看護師は対象に含めなかった．調査期間は，2024 年 4 月～6 月であった．各施設には，QR コードを印字したアンケート用紙を 20 部ずつ郵送した．回収数は 111 人，回収率は 9.25%であった．

(2)調査内容

Eric(2023)らが,ノルウェーの児童保護サービス(CPS)の職員に対して子どもの安全意識調査を行った．子どもの安全意識調査項目を参考に，本研究の調査項目を作成した．調査内容は，対象者の基本属性(性別・年齢・勤続年数・職員集団人数等)，子どもの最善の利益に関する項目,職員関係に関する項目,スーパーヴィジョンに関する項目等を構成した．

(3)分析方法

分析では，児童養護施設における子どもの最善の利益尺度の信頼性を確認するために，平均値や標準偏差から天井効果やフロア効果が出ないか検証した．また，子どもの最善の利益を問う尺度に対して因子分析を施した．下位尺度間の関連や下位尺度および基本属性

の関連を明らかにするためピアソンの積率相関係数を算出した．分析は，統計ソフト IBM SPSS Statistics 24 を使用した．

３．倫理的配慮

本研究は，倫理的配慮に基づき，公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンターの倫理審査委員会に調査内容を提出し承認を得た(24C0002)．調査対象者には，研究目的や個人情報の取り扱い,回答の拒否及び同意の撤回,データの匿名化等の説明を書面にて行った．本発表に関連して，開示すべき COI はない．

４．研 究 結 果

調査項目 27 項目に対して最尤法による因子分析を行った．十分な因子負荷量を示さなかった項目および共通性の低い 3 項目を除外し再度，最尤法・Promax 回転による因子分析を行った．結果，5 因子構造 24 項目になった．第一因子は，管理者のサポートに関する内容から【スーパーヴィジョン】(6 項目 $\alpha=0.915$)と命名した．第二因子は，子どもの最善の利益に関する内容から【子どもの最善の利益に即した支援】(8 項目 $\alpha=0.892$)と命名した．第三因子は，職場に関する満足や関心の内容から【職場の満足度】(4 項目 $\alpha=0.861$)と命名した．第四因子は，職員間のサポートや相談に関する内容から【チームワーク】(3 項目 $\alpha=0.807$)と命名した．第五因子は，職員の人数や配置に関する内容から【職員体制】(3 項目 $\alpha=0.691$)と命名した．児童養護施設における子どもの最善の利益の下位尺度に相当する項目の平均値を算出した．【スーパーヴィジョン】($M=4.094$，$SD=0.937$)，【子どもの最善の利益に即した支援】($M=4.65$，$SD=0.851$)，【職場の満足度】($M=4.547$，$SD=0.912$)，【チームワーク】($M=4.81$，$SD=0.878$)，【職員体制】($M=4.123$，$SD=0.874$)であった．下位尺度間の関連と下位尺度および基本属性の関連を探るためにピアソンの積率相関係数を算出した．相関係数は，0.2 以上をもって相関関係があるとみなした．「勤続年数」，「宿直回数」間の相関係数は，-0.284 であり弱い負の相関関係($p<0.01$)が見られた．【子どもの最善の利益に即した支援】，【スーパーヴィジョン】間の相関係数は 0.621，【子どもの最善の利益に即した支援】，【職場の満足度】間の相関係数は 0.666，【子どもの最善の利益に即した支援】，【チームワーク】間の相関係数は 0.604，【子どもの最善の利益に即した支援】，【職員体制】間の相関係数は 0.549 という比較的強い正の相関関係が見られた($p<0.01$)．

５．考 察

児童養護施設における子どもの最善の利益に関する調査から，職員が子どもの最善の利益を理念に支援をしていることが明らかになった．また，【子どもの最善の利益に即した支援】が【スーパーヴィジョン】，【職場の満足度】，【チームワーク】，【職員体制】に影響していることから，子どもの最善の利益を追求するうえで人材確保や人材育成，職員関係の構築という職場環境の形成が示唆された．加えて，「勤続年数」と「宿直回数」が影響していることから，働き続けるうえで職員に応じた宿直回数を調整することが示唆された．